

は、いかなるものか。

②放射線治療は、局所感染にいかなる影響を与えるか、以上よろしく願います。

三宅（東海大）①上顎癌の術後創は、上皮化ししても、口腔内、咽頭、その他の分泌物または食物残渣などが入り、汚染の原因となる。

②本症例のすべては、放射線との併用ですので、放射線による影響は、Controlをとっていないのでなんとはいえませんが、上顎癌の場合は、開放創の関係

上、沢山の因子が加わっており一概に放射線の影響がどうかということはいえないと思います。とかく、放射線による、局所の感染に対する、生体の反応は、放射線を照射しなかった場合に比べ、変っていることは想像できると思います。

栗山（獨協医大）緑膿菌のGM耐性株が相当みられるが、GM耐性株に対してはAMK感性のものが可成りみられるので使用を試みてみられては如何かと考える（追加）。

## 耳鼻咽喉科領域の感染病巣からの分離菌 に対する各種 Cephem 系抗生物質 の薬剤感受性に関する検討

岩 沢 武 彦\*

### 研究目的

各種標準菌株と耳鼻咽喉科領域の感染病巣より分離同定した Coagulase 陽性ブドウ球菌, Proteus mirabilis, Escherichia coli, Klebsiella pneumoniae および Pseudomonas aeruginosa などに対して各種の Cephalosporin 系および Cephamycin 系などを含めた Cephem 系抗生物質の試験管内抗菌力を調べ比較検討した。

### 実験方法

試験菌株の抗菌力の測定法は、日本化学療法学会 MIC 小委員会の指示基準にしたがい寒天平板希釈法により最小発育阻止濃度 (MIC) を測定した。培地接種菌は、Trypto-soy broth で 37°C, 18 時間増菌培養を行い、接種菌量はグラム陽性球菌は  $10^6$  cells/ml, グラム陰性菌は  $10^8$  cells/ml を培地に接種した。

### 実験成績

各標準菌株のグラム陽性、陰性菌に対して Cephem 系抗生物質は、いずれにも強い抗菌力を示した。化膿性中耳炎の耳漏から分離同定した Coagulase 陽性ブドウ球菌に対して CEZ, CTZ, CEC, CTM, CPZ, CZX, CMX などの Cephem 系抗生物質は  $\leq 0.2$ ~

50  $\mu\text{g/ml}$  の比較的広範囲に感受性分布がみられ、とりわけ  $\leq 0.2$ ~6.25  $\mu\text{g/ml}$  に MIC の集中化が認められた。

病巣分離の P. mirabilis に対して CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などは  $\leq 0.2$ ~12.5  $\mu\text{g/ml}$  に感受性が分布し、とくに CZX, CMX は  $\leq 0.2$ ~0.78  $\mu\text{g/ml}$  の範囲内に MIC が集中し、 $\leq 0.2$   $\mu\text{g/ml}$  に MIC のピークがみられた。しかし、CEX, CED, CEZ, CEPR, CTZ, CEC, CFS などは 1.56~ $\geq 100$   $\mu\text{g/ml}$  の比較的高い範囲内に MIC が分布していた。

病巣分離の E. coli に対して CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などは、 $\leq 0.2$ ~12.5  $\mu\text{g/ml}$  の範囲内に感受性分布がみられ、いずれも  $\leq 0.2$   $\mu\text{g/ml}$  に MIC のピークが認められた。しかし、CEX, CED, CEZ, CTZ, CEC, CFS などは、1.56~ $\geq 100$   $\mu\text{g/ml}$  の範囲内に MIC が分布していた。

病巣分離の K. pneumoniae に対して CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などは、 $\leq 0.2$ ~12.5  $\mu\text{g/ml}$  の範囲内に感受性分布がみられ、とくに CTM, LMOX, CZX, CMX などは  $\leq 0.2$   $\mu\text{g/ml}$  に MIC のピークがみられた。しかし、CEX, CED, CEZ, CEPR, CTZ, CEC, CFC などは、0.78~ $\geq 100$   $\mu\text{g}$

\* 札幌通信病院耳鼻科

/ml の比較的高い範囲内に感受性が分布していた。

病巣分離の *P. aeruginosa* に対して CPZ, CFS, LMOX, CZX, CMX は、 $0.78 \sim \geq 100 \mu\text{g/ml}$  の範囲内に感受性分布がみられ、とくに CPZ, CFS は  $3.13 \sim 6.25 \mu\text{g/ml}$  に MIC のピークが認められた。

### 考 察

現在、Cephem 系抗生物質の開発は、急速な進歩発展してきたが、とりわけ抗菌スペクトラムの拡大、抗菌力の増強の面に著しい向上がみられる。Coagulase 陽性ブドウ球菌には、耐性ブドウ球菌用の Is-oxazolyl 系と同様に CEZ, CEPR, CET, CER, CTZ, CEC, CTM, CPZ, CZX, CMX などに優れた耐性株も少なく抗菌力が期待されるようである。病巣分離の *P. mirabilis* には、最近開発された CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などが抗菌力が強く、とくに CZX, CMX の感受性が優れていたことが特徴的といえる。病巣分離の *E. coli* には、CTM,

CPZ, LMOX, CZX, CMX などの抗菌力が他の Cephem 系を含めた既知抗生物質に比べて数段階優れていたことがきわめて注目に値する。

病巣分離の *K. pneumoniae* には、とくに CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などが他の Cephem 系を含めた既知抗生物質より数段階抗菌力が優れていたことは高く評価されよう。

病巣分離の *P. aeruginosa* には、CPZ, CFS, LMOX, CZX, CMX などが抗菌力を有していた。とくに、CPZ, CFS は、従来の CBPC, [SBPC, PIPC, APPC などの抗緑膿菌性 PC 系抗生物質より抗菌力が優り、Aminoglycoside 系抗生物質に匹敵する感受性を有していたことは Cephem 系抗生物質としては画期的といえる。

今後、Cephem 系抗生物質は、かかる病原菌による感染症に臨床応用した場合、かなり高い抗菌治療効果が期待しえるものと思われる。

## セフメタゾンの血中濃度とグラム陽性菌感染症への使用経験

市川 朝也・佐藤 喜一・山下 公一  
 斉藤 武久・宮崎 巨・坪川 俊二  
 大沼 秀行・植田 俊郎\*

セフメタゾン (CMZ) はグラム陰性菌に抗菌力を有し、かなりの臨床成績が報告されているが、耳鼻科領域ではグラム陰性菌感染症は必ずしも多くない、われわれは無作為に選んだ急性感染症 (扁桃炎・中耳炎・外耳炎) 9 例に起炎菌の分離同定を行い同時に CMZ の MIC 値を CEZ と比較した。また 4 例に CMZ の血中濃度を測定し投与法の検討を行った。

結果：分離同定された起炎菌と CMZ と CEZ に対する MIC 値を示した (図 1)。9 例中 1 例は *Haemophilus influenzae* であつた。残りの 8 例はグラム陽性球菌であつた。MIC は CEZ より CMZ は 1 管高い値であつた。しかし、*Staphylococcus aureus* で CEZ より CMZ が低値であるものが 2 例あ

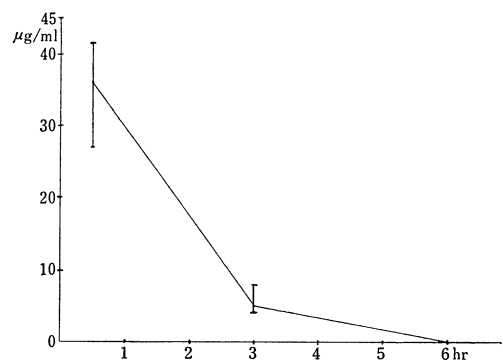


図 1 CMZ 2g 点滴静注の血中濃度

\* 金沢医科大学耳鼻咽喉科学教室